World Karate Federation
General Secretary Office

Newsletter

Vol.116

5th, November 2026

ブリスベン五輪選考進む
～ WKFの2026ダカールYOG活動 ～

◆ ブリスベン2032の実施種目選考

2032年ブリスベン五輪の実施種目選考が進んでいます。IOCは選考過程に関する情報を現時点では一切公表していませんが、これまでの発表内容とWKFの分析に基づき、現在の状況をお伝えします。

IOCの改革「Fit for the Future」により、従来の「オリンピックスポーツ」や「中核スポーツ」という概念・定義は廃止され、代わりにより細分化された種目単位(Discipline)の考え方に基づき、既存種目と追加種目候補を評価し、必要に応じて入れ替えが行われる見通しです。

追加種目候補は、東京2020、パリ2024、ロサンゼルス2028の3大会で採用された計10種目に限られ、空手もその一つに含まれています。空手の「形」と「組手」は一体不可分のものとして、合わせて一つの種目(One Discipline)と位置づけられています。奇しくも空手の伝統概念--形と組手は車の両輪--に回帰したのです。

本年12月中には評価作業が大筋で終了し、この段階で選考から外れる種目が明らかになるとみられ、その後 IOCによるさらなる検討を経て、2027年4月のIOC総会で最終決定される見込みです。

◆ ダカール2026 YOGでのWKF活動

10月31日にセネガルのダカールで開幕した2026年YOG（ユースオリンピック=16歳以下の五輪）では、空手は「Engagement Programme」に参加しています。正式競技ではありませんが、形・組手の演武や子どもたちを対象とした空手教室などを連日開催しています。

大会では、IOCのカースティ・コベントリー会長をはじめ、IOC幹部、各国オリンピック委員会(NOC)や国際競技連盟 (IF)の関係者など、多くのオリンピック関係者が会場を訪れています。
コベントリー会長は同じ日に二度会場を訪れるなど空手に強い関心を示しました。

WKFはこの機会に、コベントリー会長をはじめ多くのオリンピック関係者と会談しブリスベン五輪での空手競技の復帰を訴えました。東京2020以降に進めてきた競技規則の簡素化、ビデオレビューの改善、わかりやすいポイント表示など競技面の改革に加え、「Guardian Girls Karate(GGK)」や「SOS Children's Villages」と連携した活動など、世界各地で展開する社会貢献活動についても強調しました。

IOCが強く標榜する「開かれた、透明性の高い選考方法」がどのように進められるのか、引き続き注視していきます。

世界空手連盟　事務総長
奈藏稔久

連絡先
nag@wkf-gs.com
090-1105-1457

ダカール2026YOG　WKF ACTIVITIES



コベントリーIOC会長とWKF代表団、演武に参加した若手選手、SOS Children's Villages の子どもたちとの集合写真



空手の社会貢献活動を記念したTシャツを贈られたコベントリーIOC会長



左から、WKF 奈蔵、カースティ・コベントリーIOC会長、サラ・ウォルフWKF CEO、ジャン・パターソンIOC首席補佐官



空手体験プログラムに参加したセネガルのSOS Children's Villagesの子どもたち